1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070900875
法人名	社会福祉法人 福岡愛心の丘
事業所名	グループホーム 愛心
所在地	福岡県福岡市博多区月隈六丁目16番11-1号 (電話) 092-503-9008

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年12月4日	評価確定日	平成20年1月25日

【情報提供票より】 (平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	81 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福岡記念病院 志免総合診療所 きど歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、都市郊外の丘陵地に位置し、個人住宅と新しいマンションの混在した住宅地の山際にある。敷地内には高齢者関連の複数の福祉施設があり、その一角が事業所で、2階建ての2階部分が居室部分である。居室の入口は各部屋違った格子戸があり、開けると下駄箱のある小さな玄関になっており、奥の窓際は縁側を思わせる板張りである。入居者は比較的軽度の人が多く、話し声・笑い声が絶えず、その人らしい生活を出来るだけ長く発揮できる支援がなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題については特に見あたらなかったが、管理者が中心になり、全職員で権利擁護に関する制度についてより理解を深める等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全職員で実施する意義を理解し、協議しながら取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催している。利用者やサービスの実態を報告し、委員からの意見等はサービスの向上に活かしている。会議の議事録は、事業所便りに掲載している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>玄関に意見箱を設置している。家族来訪時は、積極的に声かけを行い、意見や苦情等を聴取するように努めている。意見等はその対応も含めて法人新聞に掲載している。苦情相談窓口について、外部機関を含めて十分に説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域清掃活動等に参加している。法人全体の夏祭りに地域の人の参加があり、幼稚園・小学校との交流やボランティアや実習生の受け入れ等を積極的に行い、地元の人々と交流することに努めている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しく・美しく・いつまでも」と事業所独自の理念をつくりあげ、利用者のケアに努めているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、朝のミーティング時に声に出して確認し合っている。言葉かけや態度等、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域清掃活動等に参加している。法人全体の夏祭りに地域の人々の参加があり、幼稚園・小学校との交流やボランティアや実習生の受入れ等を積極的に行い、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で実施する意義を理解し、協議しながら取り組んでいる。前回評価での改善課題については、特に見あたらなかったが、管理者が中心になり、全職員で権利擁護に関する制度についてより理解を深める等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。利用者やサービスの実態を報告し、委員からの意見等はサービスの向上に活かしている。会議の議事録は、事業所便りに掲載している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに相談し助言を得る等して、連携を取っている。市を通しての見学依頼等は積極的に受入れ、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が中心となり、全職員で制度に関する内部研修を実施し、周知を深めている。テキストやパンフレットを整備している。また、家族等へ、入居時または折に触れて制度に関して説明する機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行し、利用者の暮らしぶりを写真入りで紹介し、個別に担当職員から手紙で健康状況等を報告している。また、緊急時等は電話連絡を行い、家族来訪時には報告や相談を行っている。金銭管理については、月1回報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族来訪時は積極的に声かけを行い、意見や苦情等を聴取するように努めている。意見等はその対応も含めて法人新聞に掲載している。苦情相談窓口について、外部機関を含めて十分に説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員で利用者を支援できるように努めている。やむを得ない職員の交代等は、十分な引継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用等にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所で働く職員についても、自己実現の権利が十分に保証されるよう資格取得について支援し、能力を發揮して生き生きとして勤務できるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する内部及び外部研修を受講し、報告及び伝達研修も行って、全職員の周知を図っている。また、テキストやパンフレットを整備している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部及び外部研修の情報を職員に提供し、希望する研修を受ける機会を確保している。月1回の内部研修を持つ機会に、研修の報告や伝達研修を行っている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者及び職員は同業者と交流し、情報交換や互いの事業所を訪問する等、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に見学や自宅・病院訪問を行い、十分アセスメントを実施し、馴染みながらの利用を心がけている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の片付け、裁縫や編み物、畑仕事、夏祭りの着付け等、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日常的に利用者の思いや希望を本人に確認して、把握に努めている。意思表示が困難な場合は、家族から生活歴等の情報を得て、本人の表情や行動から意向を汲み取り、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族、職員の意見や要望等を取り入れ、毎日の生活全般の記録も考慮して、個別具体的に作成している。家族が了承した署名がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援を行っている。利用者が入院した際は、担当者が見舞って利用者の不安の軽減に努め、医師及び家族と連携を図り、早期退院に取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。家族等と受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法について話し合い、合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針があり、入居時に家族へ説明している。重度化した場合は、本人や家族の希望を重視し、医師や職員で話し合い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー確保について、内部及び外部研修で全職員の意識化を図り、ケアを実践している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者ひとり一人の体調や思いに合わせ、本人の気持ちを尊重した対応をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に準備や片付けをしている。	○	利用者と職員が共に暮らす視点から、同じテーブルで同じ物を食べ、一緒に味わいながら、食事をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望やタイミングに合わせて、入浴支援を行っている。入浴拒否する利用者には、声かけやタイミング等に配慮し、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりの得意なことを把握し、食事作り、ピアノ演奏、お茶等、生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や利用者の体調、希望に応じて、毎日の散歩を支援している。また、月2回の買い物や季節行事や観劇、外食等、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中、居室や玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、玄関に設置している小さな鈴に頼ることなく見守り、外出した際は、さりげなく後ろから付き添っている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害対策マニュアルがあり、年2回、消防署の協力を得て消防団と共に避難訓練を実施している。また、非常用食料や飲料水等は、準備している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は管理栄養士が作成し、栄養バランスや摂取カロリー等についてアドバイスを得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木目調で、エアコンを設置している。廊下にはソファや畳敷きの椅子、公衆電話を設置して、家庭的雰囲気配慮している。クリスマスツリーを飾る等して季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。不快と感じる音や光はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は全て畳敷きの和室で、利用者の使い慣れた筆筒や鏡台、ベッド、仏壇、写真、冷蔵庫等を持ち込み、それぞれに安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。